令和6年度　能美市立湯野小学校　学校評価

重点目標	具体的方策	担当	【評価指標】<成果指標>・<努力指標><達成度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況	評価	2学期以降に向けての改善策	後期評価	今年度の取組状況および達成状況	学校運営委員会からのコメント
1 組織的な学校運営	①【組織的な教育活動の推進】主任会中心にPDCAサイクルを機能させ、互いに連携した組織的な教育活動を推進する。	教頭	【努力指標】主任等を中心にPDCAサイクルを機能させ、互いに連携した組織的な教育活動を推進している。	【教職員アンケート】「学校経営ビジョン具現化のための各自の役割を認識し、組織的に取り組み、定期的な検証がなされている」と答えた教職員の割合 A　90%以上 B　80～90% C　70～80% D　70%未満	93.3% 主任が学校運営に参画意識を持ち、学校の実態や状況を踏まえた取り組みを進めている。校長ビジョン実現に向け、全体で共有することを意識し、学校全体が動いている。	A	昨年度から、各週1回定期的な主任会を行っている。月主任会では、実務の課題や、各部の進捗状況を共有している。今後も有効な会になるように進めていく。	A	93% 学校経営ビジョン具現化のために、各自が役割を自覚できるように、各主任がきめ細やかに部の運営を進めている。今後、さらに「検証」への意識を高め、次の取組に確実に生かしていく。	
	②【働き方改革の推進】タイムマネジメントの意識を高め、教職員の専門性を生かし、業務改善の取組を推進する。	教頭	【努力指標】【成果指標】教科担任制、行事や会議の精選・統合化、ICTの効果的活用、スキルの共有、業務の平準化に向けた取組等を行い、業務全体のスリム化を図ることで、時間外勤務時間の短縮を目指す。教職員一人一人がタイマネジメントの意識を持ち、見通しを持って業務を行っている。時間外勤務時間も前年度同時期に比べ減少し効果が現れている。	【教職員アンケート】「自身は、タイムマネジメントの意識を持ち、見通しを持って業務に取り組んでいる」と答えた教職員の割合 A90%以上かつ②の時間外勤務平均が前年度同時期に比べ減少 B80～90% C70～80% D70%未満 【勤務時間調査】	86.7% 時間外勤務平均時間4月85【52h】R6【49　4】6月【43　6】8月【42】と時間外平均は前年度に比べ、減少はしているものの、ICTの効果的活用、スキルの共有、業務の平準化に向けた取組を推進していきたい。	B	業務の平準化に向け、主任会で年間の行事担当、取組を洗い出し、担当部署を改めて考え直す機会をとる。働き方改革に向けた見えやすい部分と見えにくい部分（積極的上）両方に目を向けて働き方改革を推進していく。	A	100% 教職員一人一人がタイマネジメントの意識を高めている。見通しをもって業務を行うことがタイマネジメントにも繋がることを主任会でも共有し、早めの提案を心掛けている。また、各部からの年度末ふりかえりから、取組を精選し、来年度に向かう。時間外勤務の状況は9月34時間（33）10月37時間（39）11月36時間（35）12月27時間と各教員の意識の高さが成果となっている。	
2 確かな学力の育成	③【学力向上に向けての体制確立】 学力向上プランを有効的に活用し、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。	教務	【成果指標】 学習未20問検定（漢字・計算）での平均点が90点を超えている。	【2つの検証結果の組合わせ】 各学年の学習未20問検定（漢字・計算）を全校平均点で表した結果 A　90%以上 B　80～89% C　70～79% D　70%未満	90% 漢字検定・計算検定ともに90%という結果であった。朝のふりかえりタイムでの学習の習熟や放課後学習による個別指導の時間を確保したことが結果に表れていると考えられる。	A	学年よって結果にばらつきがあったことから、さわやかタイムの内容を全校で統一し、確実に習熟の時間が確保できるようにする。また、算数における重点単元について、単元前、中、後にいて苦手な児童を支援する活動を行う。また、活用力の向上に向け、年後の帯タイムを使って、活用問題に定期的に取り組んでいく。これらの取組により、1学期以上に子供たちの学力が身に付くようにする。	A	92%（＋2%） 漢字検定93%、計算検定91%という結果であった。2学期から予定教員にさわやかタイムの内容を提示し全校で教材を統一したことで、偏りなく学習する時間を確保することができた。また、放課後学習や学力補充タイムについても計画的に取り組むことができた。今後も継続していくことで、子供たちの学力が身に付くようにしていく。	
	④【主体的に学び、自己を見つめ直す児童の育成】 重点をもとにした指導で、以下の3つの力を育成していく。 ①考え、関わり合い学ぶ子 ②自分も人も大切にする子 ③ねばり強く学ぶ子	研究	【努力指標】 3つの力を具体化した姿で児童と共有し、推進していく。 【成果指標】 児童、教員アンケートにおいて、肯定的に回答している。	【児童アンケート】 児童アンケートで以下の項目で肯定的に回答した児童の割合 ①話し合う中で考えを広めたり深めたりすることができていますか。 ②自分も人も大切にすることができますか。 ③学習をふり返りながら、目標に向かってがんばっていますか。 A　90%以上　B　80～89% C　70～79%　D　70%未満 【教員アンケート】 教員アンケートでの割合 研究の授業で、主体的な対話が見られる場合いは？ A　90%以上　B　80～89% C　70～79%　D　70%未満	【児童】 ①低学年89.5　高学年90.5 ②低学年95.8　高学年92.7 ③低学年93　高学年89.9 どれも8割以上で高いが研究部で5月にアンケートを実施した際にはさらに高かった傾向。 【教員】 77%の教員が授業の8～9割で主体的な対話が見られると回答。C評価。研究部で実施した5月アンケートの結果では、4～6割が多かったので、主体的な対話は年度当初より見られるようになってきている。	児童B 教員C	アンケートの中で話し合う中で考え方を広めたり深めたりすることができていますか。」の項目が低く、6月と比較しても高学年では-9と低下している。児童は、考えを広めたり深めたりすることへの意識が低かったりその有用性を感じていない可能性がある。友達との対話で、考え方広の深めることは、学びを自己調整しさらに高めることに必要不可欠。広げ深まった経験から自分や友達の良さの大切さを感じることができる。つまり②③の項目のためにも①を向上させることは大切。そこで、月に一度、友達との対話のおかげで考えが広まり深まったと実感できる会を全校で持っていく。児童のふり返りから、対話や学び合いの良さを実感できるようにする。	児童A 教員B	【児童】 ①低学年89.3　高学年91.7 ②低学年91.1　高学年94.7 ③低学年88.4　高学年90.1 どれほぼ横ばいで4月と同。 低学年では③がぐんと上がり、高学年ではどの項目も上がった。 【教員】 83%の教員が授業の8～9割で主体的な対話が見られると回答。B評価。 前回の評価を受けて、全校でサンタクスパーティーを企画し、対話することで学びが深まる、対話をした友達に、感謝を伝えた友達に感謝するのり組みを行った。その取り組みが低学年から発信していったこともあり①の高学年が上昇した。低学年では、学びをふり返りながら自信に向かっていける3の項目が大きく上昇、いずれにしても主体的に学びに向かっていると言える。低学年の2の友達も自分も大切にしていますかという項目が下がったのが気になる。教員が実践して良い事例を取り上げる必要があるのかもしれない。 道徳授業力向上を目指し、教員一人となり取り組んできたことが、効果発揮で主体的な対話を入れる授業づくりの意識が高。	
3 豊かな心と人間関係力の育成	⑤【不登校・いじめ対応】 児童理解や指導・支援の情報を共有し、全教職員で組織的な対応をとり、不登校やいじめの未然防止、早期対応に努める。	生徒指導	【満足度指標】 安心安全な学校生活を送り、80%以上の児童が学校生活が楽しいと感じている。 学級に児童の居場所があり、一人ひとりが学級生活に満足している。	【児童アンケート】 「学校が楽しいかに「当てはまる＋まあまあ当てはまる」と答える児童の割合 A　95%以上 B　85～94% C　70～84% D　70%未満	89.8% 毎月初めに友達アンケートを児童に行い、早期にいじめ認知会を行っている。また、夏休みにもQ-Uの結果から気になる児童を共有する会や児童理解の会を行い、困り感がある児童を全職員で共有している。	B	いじめ認知会や児童理解の会で共有したことを実践していく。困り感のある児童を継続して見取るために、組かく共有できるシートも活用していく。	A	94%（＋4%） 月一回の友達アンケートやいじめ認知会議を計画的・継続的に行うことができた。また、二学期は、困り感がある児童ごとに、エクセルのシートを作成し、その都度、各担任に入力してもらったので、最新の情報が共有しやすかった。各学年や学校行事も計画的に行うことができた。	
	⑥【主体的に行動する児童会、学級会活動】 授業や学級活動、児童会活動等で、生徒指導の4つの視点を生かし、自己有用観や温かい人間関係を育む。	生徒指導	【努力指標】 クラス会議・学級活動・児童会活動に自分から進んで取り組み、楽しむことができる。	【児童アンケート】 クラス会議や学級活動、・学年や学級行事などに取り組むのは楽しい」に「当ては＋まる＋まあまあ当てはまる」答える児童の割合 A　90%以上 B　80～89% C　60～79% D　60%未満	90% 一学期は、企画運営委員会を中心に「湯野っ子集会」や「パフォーマンス大会」などを実施することができた。夏休みには、1学期にクラス会議でしてきたことを生徒指導の校内研で交流する。	A	クラス会議では、意休みに交流したことを用いて、各学級の実態に応じて内容を充実していく。また、昨年度できなかった児童から人気の「湯野っ子わくわくパーティー」を実施できるように早めに計画を立てていく。	A	93%（＋3%） クラス会議は、各学年、隔週ごとに行うことができた。また、本年度は、昨年度中止となった「湯野っ子わくわくパーティー」を12月に行うことができた。　12月には能登産金を児童会と4年生がコラボ（善金をした方に丸谷焼をプレゼントして行った。その後、正院小学校と交流を行った。	
4 健やかな体の育成	⑦【体力づくり】 児童が主体的に取り組む体力づくりや体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	【成果指標】 体力テストの「反復横跳び」において、4年生以上の平均が2023年県平均を1回以上上回る	【体力ﾌﾟﾗ取組】 4年生以上の平均が2023年県平均より A　県平均を1回以上上回る B　県平均を0.5回以上上回る C　県平均と同数程度 D　県平均より1回以上下回る	4・5・6年生で体力テストを実施した。また、授業初めの準備体操後に、反復横跳びを1週間に1度取り入れ、4年生以上の平均が2023年県平均よりプラス0.8回を達成した。（全校平均43.16回）	B	2学期も継続して体育の時間に取組を行い、敏捷性を高めていく。	A	体育館に反復横跳びのラインを貼り、継続して反復横跳びに取り組んだ結果、県平均よりも、2学期の学校平均が247回上回った。（全校平均44.73回）来年度もこの水準を保っていけるようにしていきたい。	
	⑧【自己管理能力の育成】 基本的な生活習慣（メディアコントロール）の確立を目指して取組を進め、自己管理能力を育成する。	保健主事	【成果指標】 保健委員会や学級での働きかけを受け、各家庭がメディア利用についてのルールを決め、決めたルールを守って利用している。	【児童アンケート・保護者アンケート】 学校のメディア取り組み期間中「メディア利用について家庭で決めたルールを守って利用している」と答える A　80%以上 B　70～80% C　60～70% D　60%未満	73% 児童保健委員会の取り組みで、各家庭に今年度のメディアルールを決めてもらった。また、そのルールを見直し、メディアコントロールができるようにメディアの取り組みを行った。	B	メディアの取り組みの参加率が低下している。CD評価している保護者の多くは、取り組みに不参加の児童や参加しているが、違反が多い低い児童の保護者であった。期間中、「保健委員が参加及びルール遵守の意識向上をねらいとした放送を行う」「全生のメディアとのかかわり方紹介」など、全校で取り組む環境を作りたい。	B	保健委員会を中心に児童主体の取組として行った。低下していた児童の参加率が向上し、ルール遵守の意識向上がみられた。保護者のアンケートの内訳では、「よくあてはまる」との回答が増加した。しかし、保護者のメディアに対する考え方が多様になっており、所有度、ルールを守って利用していると回答した割合が、低下している実態もある。	
5 地域・家庭との連携	⑨【ふるさと教育の推進】 育友会や学校運営協議会との連携、協働を図る。	教頭	【努力指標】 地域人材を活用した教科、学活、総合的な学習などの授業を行い、特色ある教育や専門的な指導を推進している。	【教員アンケート】 「地域を生かす授業を計画し、実行している」と回答した教員の割合 A　90%以上 B　80～90% C　70～80% D　70%未満	100% 地域人材を活用した教科、学活、総合的な学習などの授業を行い、特色ある教育や専門的な指導を推進している。1学期は4年生が地域の九谷焼見学や浴衣から話を聞く特色ある授業も行うことができた。	A	2学期もこれまでの取組に加え、道徳のゲストティーチャーなど、様々な場面で地域を生かす授業を計画、実施していく。また、校内掲示なども地域のもの、ふるさと能美に興味がもてるよう工夫していきたい。	A	93% 今年度は「いしかわ道徳」（県指定）の授業でのゲスティーチャーとゲスティーチャーと共に授業を公開できたことがよかった。地域のよさ・良さに児童が気づく授業も多く展開された。今年度実施した授業について年間計画にも残し、次年度の計画に位置づける。	
	⑩【ふるさと教育の推進】 ゆのっ子プランをもとに、地域の自然や文化、人材をいかしたふるさと教育を推進する。	教務	【努力指標】 ふるさとの人、もの、コトとの関る学習の機会を持ち、ふりかえりを交流し合うことで、地域を大切に思う心情を育む教育を推進している。	【児童アンケート】 学校評価のアンケート「私は、能美市や自分の住んでいる町のことを大切に思っている」に対して肯定的に答えた児童の割合 A　90%以上 B　80～89% C　70～79% D　70%未満	94% ゆのっ子プランにおいて地域に関わる学習を取り入れている。 3年（ふるさと自信） 4年（九谷焼） 5年（地域の米づくり） 6年（地域の町づくりを考える） これらの学習が、地域を思う気持ちを育んでいると考える。	A	2学期もゆのっ子プランをもとにした、学習を計画的に推進していくことで、地域や地域の方々とふれあいながら、地域を大切に思う心情を育んでいけるようにする。	A	97%（＋3%） 3年（ふるさと自慢） 4年（九谷焼） 5年（地域の米づくり） 6年（地域の町づくりを考える） 各学年が町たんけんや他校との交流など地域とつながりながら学習を進めてきたことで、地域を大切に思う心情の育成に結びついたのではないか。来年度も今年度の反省をいかしながら、計画的にゆのっ子プランの充実を図っていきたい。	